

VRで視覚体験
職業学習会開く

麗澤瑞浪中・高

VR（バーチャル・リアリティ）仮想現実の装置を着け、医療・介護・福祉職について学ぶ「VR職業体験学習会」が先ごろ、瑞浪市稲津町の麗澤瑞浪中学・高等学校（藤田知則校長）で開かれ、中学三年生徒六人、高校生九人が視覚体験をした。

敬心学園（東京新宿区、小林光俊理事長）の職業

教育研究開発センターが開発したVRプログラムを活用。今後の進路を考える上で、適切なイメージを持つ参考にするために開いた。「作業療法」「スポーツ編」「介護」に関わるプログラムを生徒が各自で選び、三分野でそれぞれの「職業体験」をした。

生徒らは、不安そうに装置を着けて授業に取り組んだが、あまりにリアルな画面に思わず身を乗り出したり、空間に手



VR装置を着けて授業に臨む生徒ら

を伸ばして触ろうとする生徒も。「寮で階段から転落したことがあり、現実のような画面に驚いた」、「介護職員の仕事を理解できた」などと話し、

効果的な授業になったようだ。